

第2学年「算数」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○ 簡単な足し算や引き算の計算ができるようになった。
○ 数学的活動に、関心や意欲を示す児童が多い。
- 課題** ▼ 理解や達成度には、個人差がみられる。
▼ 問題をよく読んで立式したり、答えを導きだしたりすることが苦手な児童が多い。
▼ 数の概念や、数量の感覚があまり身に付いていない児童がいる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇数量の関係に着目し、具体物や図などを用いて、数や量を表したり計算したりできるようにする。
- ◇身の回りにある事象を図形の性質から考察したり、図やグラフなどのデータの特徴に着目して捉えたりできるようにする。
- ◇数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを生活や学習に生かすことができるようにする。

具体的な改善策

- 具体物を操作する活動を通して、数の概念が理解できるようにする。
- 東京都ベーシックドリル等を活用して、1年生で学んだことを振り返りながら、スモールステップで繰り返し学習し、理解を確実にする。
- 身の回りの事象に着目し、数量や図形などと結び付けて考察できるように、適宜話題にし、教材設定を行う。
- デジタル教科書を活用し、視覚的に手順が分かるようにする。

達成目標

- 数の概念についての理解を深め、計算の意味と性質、基本的な図形の概念、量の概念、簡単な表とグラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の計算、図形の構成、長さやかさなどの測定、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付ける。
- 必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、量の単位を用いて的確に表現する力、身の回りの事象を簡潔に表現したり考察したりする力などを養う。
- 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。